

〔資料紹介〕木島正夫による青花紙製作の映像記録

著者	石村 智
雑誌名	無形文化遺産研究報告
号	11
ページ	101-113
発行年	2017-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1440/00003183/



〔資料紹介〕 木島正夫による青花紙製作の映像記録

石 村 智

1. はじめに

木島正夫（1913-1996）は、京都大学や京都薬科大学などで教鞭をとった生薬学者であり、薬用植物および生薬の研究で数多くの業績を残したことで知られる。木島の研究のひとつにアオバナ（オオボウシバナ）の研究があり、昭和10年（1935）に発表した論文「青花考」¹⁾のなかでは薬用植物としてのアオバナについてのみならず、染料としてのアオバナおよびその製造法についても記述している。

東京文化財研究所無形文化遺産部は平成28年（2016）に滋賀県草津市と研究協定を締結し、青花紙の製作技術に関する共同研究を開始した。アオバナの染料は京友禅や加賀友禅の下絵を描くのに用いられるが、それはアオバナの青色色素はアントシアニン系化合物であり、水溶性で色落ちしやすいという特徴があるため、アオバナの色素で描いた下絵の色は最終的には完全に抜け落ちてしまい、仕上がった染め物に残らないことを利用したものである。青花紙はアオバナの染料を和紙（美濃紙）に染み込ませたものであり、これを水に溶いて下絵付けの染料として用いた。アオバナの栽培および青花紙の製作は草津市をはじめとする湖南地方で江戸時代よりおこなわれてきたが、近年では化学合成した色素（化学青花）が用いられるようになったためアオバナの需要は減り、現在では青花紙を製作するのはわずか3軒の農家となってしまった。そのため青花紙の製作技術を調査・記録し、保存の措置を講じることは急務となっている。

この共同研究を進めるなかで、木島正夫のご子息である木島温夫氏（滋賀大学名誉教授）から、木島正夫による青花紙製作の映像記録および写真資料の提供を受ける機会を得た。本稿ではその内容について紹介することとしたい。

2. 木島正夫資料の内容

今回、木島温夫氏より提供された資料は、8ミリフィルム1本、VHSビデオテープ1本、および写真ネガフィルム7カットである。いずれの資料もデジタル型式に変換して保存し、8ミリフィルムと写真ネガフィルムについてはオリジナルを本研究所が寄託を受け、VHSテープのオリジナルについては木島温夫氏に返却した。以下、その内容を紹介したい。

・ 8ミリフィルム

タイトル：青花紙の作られるまで

撮影日時：1963年8月2日

場所：滋賀県守山市

8ミリフィルムについては、経年劣化のため保存状況は良好ではなく、とりわけ退色が著しかったが、株式会社東京光音によってデジタル化による復元がおこなわれ、オリジナルにかなり近い形まで復元することができた。

収録時間は7分18秒で、カット数は34であった。以下、カットごとの内容を記す（資料1参照）。

- カット1 (0:00-0:10) ハスの花
- カット2 (0:10-0:18) ハスの花（アップ）
- カット3 (0:18-0:26) ハスの花の咲く池（妙蓮池）
- カット4 (0:26-0:42) アオバナを摘む作業
- カット5 (0:42-0:53) アオバナを摘む作業（アップ）
- カット6 (0:42-1:03) アオバナを摘む作業
- カット7 (1:03-1:19) アオバナ（アップ）
- カット8 (1:19-1:29) アオバナを摘む作業（アップ）
- カット9 (1:29-1:47) アオバナの畑の様子
- カット10 (1:47-2:00) ザルに集められたアオバナの花弁
- カット11 (2:00-2:10) ザルに集められたアオバナの花弁（アップ）
- カット12 (2:10-2:26) アオバナの花弁をふるいにかけて、ゴミを取り除く作業
- カット13 (2:26-2:38) ふるいのなかでアオバナの花弁から不要部分を取り除く作業
- カット14 (2:38-3:00) カゴからアオバナの花弁を取り出してふるいにかけて、ザルに移す作業
- カット15 (3:00-3:01) 2人の人物が向かい合ってアオバナの花弁をふるいにかける作業の様子
- カット16 (3:01-3:10) アオバナの花弁をザルから漉し布をかけたタルに移す作業
- カット17 (3:10-3:14) アオバナの花弁をザルから漉し布をかけたタルに移す作業
- カット18 (3:14-3:30) タルの中でアオバナの花弁をこねる作業
- カット19 (3:30-3:40) タルの中でアオバナの花弁をこねる作業
- カット20 (3:40-3:56) こねたアオバナの花弁をさらに漉し布で包んで絞る作業
- カット21 (3:56-4:23) タルの中でアオバナの花弁を漉し布で絞り、汁を絞り出す作業
- カット22 (4:23-4:37) タルの中でアオバナの花弁を漉し布で絞り、汁を絞り出す作業
- カット23 (4:37-5:05) アオバナの汁をハケで和紙に塗る作業
- カット24 (5:05-5:14) アオバナの汁が塗られた和紙を一枚ずつはがす作業
- カット25 (5:14-5:24) アオバナの汁が塗られた和紙をゴザの上に並べ、天日で乾燥させる作業
- カット26 (5:24-5:30) アオバナの汁が塗られた和紙を天日で乾燥させている様子
- カット27 (5:30-5:43) アオバナの汁をハケで和紙に塗る作業
- カット28 (5:43-6:04) アオバナの汁をハケで和紙に塗る作業
- カット29 (6:04-6:32) アオバナの汁が塗られた和紙をゴザの上に並べ、天日で乾燥させる作業
- カット30 (6:32-6:49) 天日で乾燥させたアオバナが塗られた和紙を回収する作業
- カット31 (6:49-6:53) 完成した青花紙（アップ）

- カット32 (6:53-7:00) 青花紙を手にする人物
- カット33 (7:00-7:08) 青花紙を手にする人物 (アップ)
- カット34 (7:08-7:18) たたまれた青花紙を新聞紙に包む様子

・VHSビデオテープ

タイトル：オオボウシバナ栽培

撮影日時：1978年

場所：滋賀県

VHSビデオテープについては、比較的保存状態は良好であったため、東京文化財研究所内でデジタル化の作業をおこなった。なお音声は収録されていなかった。

収録時間は3分00秒で、カット数は21であった。以下、カットごとの内容を記す（資料2参照）。

- カット 1 (0:00-0:17) アオバナの畑の様子
- カット 2 (0:17-0:26) アオバナを摘む作業
- カット 3 (0:26-0:35) アオバナを摘む作業 (アップ)
- カット 4 (0:35-0:40) アオバナの畑の様子 (アップ)
- カット 5 (0:40-0:43) アオバナの畑の様子 (アップ)
- カット 6 (0:43-0:48) カゴからアオバナの花弁を取り出してふるいにかける作業
- カット 7 (0:48-1:00) ふるいにかけてアオバナの花弁を金属製の容器に移す作業
- カット 8 (1:00-1:05) 金属製の容器の中でアオバナの花弁をこねる作業
- カット 9 (1:05-1:13) ふるいにかけてアオバナの花弁を金属製の容器に移し、その中でアオバナの花弁をこねる作業
- カット10 (1:13-1:22) タルの中でアオバナの花弁を漉し布で絞り、汁を絞り出す作業
- カット11 (1:22-1:29) タルの上に重しを乗せ、さらに梘子を設置する様子
- カット12 (1:29-1:38) 梘子の力点側に重しを吊り下げた様子
- カット13 (1:38-1:41) 梘子によってタルの中のアオバナの花弁から汁を絞り出す作業
- カット14 (1:41-1:47) アオバナの汁がためられた洗面器の中で、さらに漉し布の中にある花弁を絞る作業
- カット15 (1:47-2:01) アオバナの汁をハケで和紙に塗る作業
- カット16 (2:01-2:23) アオバナの汁が塗られた和紙を一枚ずつはがす作業
- カット17 (2:23-2:36) アオバナの汁が塗られた和紙をゴザの上に並べ、天日で乾燥させる作業
- カット18 (2:36-2:40) 青花紙を手にする人物
- カット19 (2:40-2:46) 青花紙を手にする人物
- カット20 (2:46-2:48) 完成した青花紙をたたむ様子
- カット21 (2:48-3:00) 青花紙の未成品を塗りの工程ごとに並べた様子

・写真ネガフィルム

写真ネガフィルムについては、中判カメラ用のブローニーフィルムが用いられていた。7カットのいずれもが論文「青花考」の図版として使用されたものであり、このことから撮影時期は昭和10年(1935)以前であることがわかる。以下、その内容を記す(資料3参照)。

写真1 「青花考」第二図「栽培せるオホボウシバナの開花」に用いられた写真

写真2 同、第三図「オホボウシバナの栽培状況」に用いられた写真

写真3 同、第四図「オホボウシバナの花の採取状況」に用いられた写真

写真4 同、第五図「オホボウシバナの花冠と雄蕊の分離」に用いられた写真

写真5 同、第六図「青花汁搾取状況」に用いられた写真

写真6 同、第七図「原紙に青花汁を塗るところ 右方は圧搾器を示す」に用いられた写真

写真7 同、第八図「青花紙の乾燥」に用いられた写真

3. 木島正夫資料の内容についての考察

以上の三種の資料のうち、年代的に古いものは写真ネガフィルム資料であり、1930年代以前の状況を示すものである。一方で8ミリフィルム資料は1963年、VHSビデオテープ資料は1978年と、15年の開きがあるものの比較的近い年代のものである。

しかしいずれの資料においても、基本的な青花紙の製造の手順は大差ないと考えられるが、若干の差異もみとめられた。以下、手順ごとの差異を見てみよう

大きな相違点として挙げられるのは、写真ネガフィルムとVHSビデオテープではアオバナの汁を絞るための梶子を利用した道具(圧搾器)が記録されているが、8ミリフィルムでは記録されていない点である。この道具は『栗太郡山田郷青花紙取調書』にも見ることができる伝統的な道具ではあるが、これを用いずに手で絞るだけの方法もある。現在の草津市では、青花紙製作をおこなっている農家ではこの道具を用いておらず、ただ小学校の課外授業などで青花紙製作を実演するときのみ使用されている。

それ以外の差異としては、ふるいにかける作業が、写真ネガフィルムでは屋外の畑で立った姿勢でおこなわれているのに対し、8ミリフィルムとVHSビデオテープでは屋内で座った姿勢でおこなわれている点である。これについては論文「青花考」に「花卉採取の操作は全部野外で行ひ、後屋内で花汁を絞るのである」(6頁)と記述されているので、この時代にはふるいにかける作業までは屋外でおこなわれるのが一般的であったことを示している。

またタルから絞り出したアオバナの汁を受ける容器には、写真ネガフィルムと8ミリフィルムでは金属製容器が用いられているが、VHSビデオテープではプラスチック製の洗面器が用いられている。こうした道具の素材の変化も、時代の変化を反映していると考えられる。

共通する点としては、畑に支柱を立てて縄を張って花が倒れないようにする方法や、アオバナを摘む際に小さなカゴを用いる点、アオバナの汁を和紙に塗る作業においてハケを用い木製の台の上でおこなう点、アオバナの汁が塗られた和紙を乾燥させる作業においてゴザの上に紙を並べて天日で乾燥

	写真ネガフィルム (1930年代)	8ミリフィルム (1963年)	VHSビデオテープ (1978年)
畑の様子	支柱が立てられ、縄が張られている	支柱が立てられ、縄が張られている	支柱が立てられ、縄が張られている
アオバナを摘む作業	小さなカゴに花卉を入れる	小さなカゴに花卉を入れる	小さなカゴに花卉を入れる
ふるいにかける作業	屋外でおこなう	屋内でおこなう	屋内でおこなう
アオバナの花卉を手でこねる作業	金属製の容器を用いる	タルの中でおこなう	金属製の容器を用いる
アオバナの汁を手で絞る作業	記録なし	タルの中でアオバナの花卉を漉し布で絞る	タルの中でアオバナの花卉を漉し布で絞る
アオバナの汁を梘子で絞る作業	梘子を用いる	記録なし	梘子を用いる
絞ったアオバナの汁を受け取る容器	金属製の容器	金属製の容器	プラスチック製洗面器
アオバナの汁を和紙に塗る作業	ハケを用い、木製の台の上でおこなう	ハケを用い、木製の台の上でおこなう	ハケを用い、木製の台の上でおこなう
アオバナの汁が塗られた和紙を乾燥させる作業	ゴザの上に並べ、天日で乾燥させる	ゴザの上に並べ、天日で乾燥させる	ゴザの上に並べ、天日で乾燥させる

させる点などが挙げられ、こうした作業の方法は現在おこなわれている方法とほとんど大差ない。ただし現在では乾燥させる作業をビニルハウスの中でおこなうこともある。

4. おわりに

現在、東京文化財研究所は草津市と共同で青花紙製作の調査研究をおこなっており、そのなかで映像記録の作成もおこなっている。青花紙製作の現状を記録することはもちろん重要なことではあるが、それに加えて、過去の映像記録と比較・対照することで、青花紙製作がどのように変化を遂げてきたかを明らかにすることができる。とりわけここ数十年の間に、青花紙製作をめぐる状況は大きく変化し、生産する農家も激減してしまった。その過程で製作の方法にどのような変化が起きたかを明らかにする上で、この木島正夫資料は重要な価値を持っている。

青花紙は「重要無形文化財」に指定されている「友禅」などの工芸技術を支える上で重要な材料であり、その製作技術は「文化財の保存技術」²⁾に該当すると考えられる。現在のところ、青花紙製作は「選定保存技術」³⁾としての選定は受けておらず、文化財保護の対象にはなっていないが、青花紙製作をめぐる現状は厳しく、保存の措置を講じることは急務と考える。私たちが進めている共同研究の成果が、青花紙の保存に資するものになることを切望している。

謝辞

貴重な資料をご提供いただいた木島温夫氏に感謝申し上げます。

《注》

- 1) 木島正夫「青花考」『漢方と漢薬』第2巻第3号 1935年
- 2) 『文化財保護法』「第十章 文化財の保存技術の保護」参照
- 3) 同上

資料1 8ミリフィルムの内容 (抜粋)



1 カット4 アオバナを摘む作業



2 カット9 アオバナの畑の様子



3 カット12 アオバナの花弁をふるいにかけて、
ゴミを取り除く作業



4 カット19 タルの中でアオバナの花弁をこねる
作業

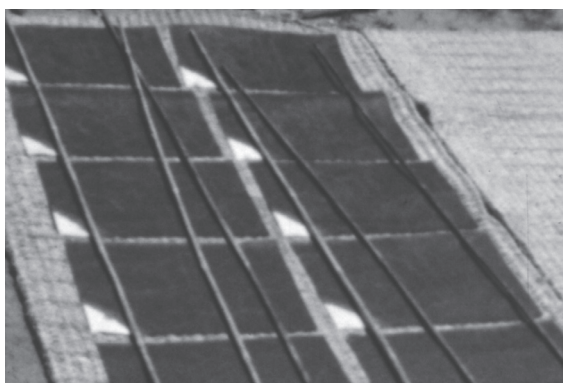


5 カット22 タルの中でアオバナの花弁を漉し
布で絞り、汁を絞り出す作業



6 カット23 アオバナの汁をハケで和紙に塗る
作業

資料1 8ミリフィルムの内容(抜粋)



7 カット26 アオバナの汁が塗られた和紙を天日で乾燥させている様子



8 カット28 アオバナの汁をハケで和紙に塗る作業



9 カット29 アオバナの汁が塗られた和紙をゴザの上に並べ、天日で乾燥させる作業



10 カット34 たたまれた青花紙を新聞紙に包む様子

資料2 VHSビデオテープの内容 (抜粋)



1 カット1 アオバナの畑の様子



2 カット2 アオバナを摘む作業



3 カット6 カゴからアオバナの花弁を取り出してふるいにかける作業



4 カット9 ふるいにかけたアオバナの花弁を金属製の容器に移し、その中でアオバナの花弁をこねる作業



5 カット10 タルの中でアオバナの花弁を漉し布で絞り、汁を絞り出す作業



6 カット13 梃子の力点側に重しを吊り下げた様子

資料2 VHSビデオテープの内容 (抜粋)



7 カット15 アオバナの汁をハケで和紙に塗る作業



8 カット17 アオバナの汁が塗られた和紙をゴザの上に並べ、天日で乾燥させる作業



9 カット19 青花紙を手にする人物



10 カット21 青花紙の未成品を塗りの工程ごとに並べた様子

資料3 写真ネガフィルムの内容



写真1 栽培せるオホボウシバナの開花



写真2 オホボウシバナの栽培状況



写真3 オホボウシバナの花の採取状況



写真4 オホボウシバナの花冠と雄蕊の分離



写真5 青花汁搾取状況

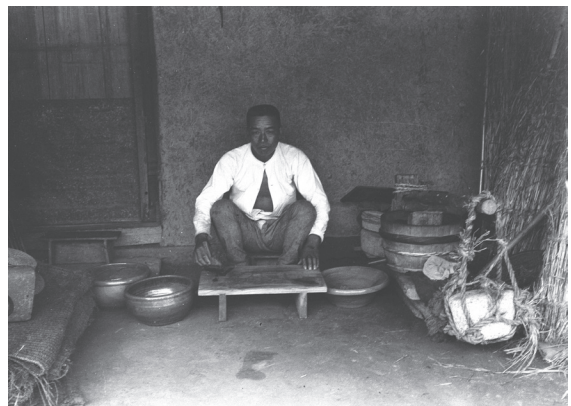


写真6 原紙に青花汁を塗るところ 右方は压榨器を示す

資料3 写真ネガフィルムの内容



写真7 青花紙の乾燥

Documentary Films on the Production of *Aobana-gami*
by KONOSHIMA Masao

ISHIMURA Tomo

Aobana-gami is a coloring material used in making the preliminary sketch for *yuzen* dyeing. It is made by dyeing *washi* (Japanese paper) with *aobana*, a kind of dayflower (*Commelina communis* L. var. *hortensis* Makino). It was produced in large amounts in the past but now its production is on the verge of disappearance.

Recently, documentary films taken in 1963 and 1978 by Dr. KONOSHIMA Masao, a scientist of natural medicine, on the production of *aobana-gami* were presented to the Department of Intangible Cultural Heritage. They serve as valuable material in preserving the techniques for the production of *aobana-gami* which are about to be lost today.